

試験体一覧

オートマックスは駆動系を中心にエンジンから車両及びタイヤまで、多くの試験体を対象とした試験機を提供しております。下表の試験体は一例であり、また同じ試験体でも試験目的に応じて試験機の構造やシステムは大きく変わります。多くの納入実績により蓄積された技術・経験を基に、最適な試験システムを提案致します。

トランスミッション	駆動系部品1	駆動系部品2	トライボロジー	車両/シャシー	エンジン部品
 トランスミッション	 トルコン/ロックアップ	 コントロールバルブ	 SAE#2	 サスペンション	 ピストン/ライナー
 4WDドライブトレイン	 ギヤ	 クラッチパック	 LVFA	 タイヤ	 動弁系
 NV試験	 シンクロナイザー	 ドライブシャフト	 シンクロナイザーリング	 ステアリング	 バルブ/バルブシート
 低速高負荷試験	 ベアリング	 オイルポンプ	 材料/潤滑油	 ブレーキ	 ラジエータ

SAE#2試験機

湿式クラッチの摩擦特性、潤滑特性等の評価試験を自動で行う装置です。
高精度な慣性吸収試験を実現するため、回転軸に接触する余計な摩擦機械要素を、取り除いた極低フリクション構造となっています。
SAE#2試験機はお客様のご要求により多くのバリエーションがあり、標準仕様に加えて、高速回転、中速引きずり機能、低温試験などにも、個別に対応致します。



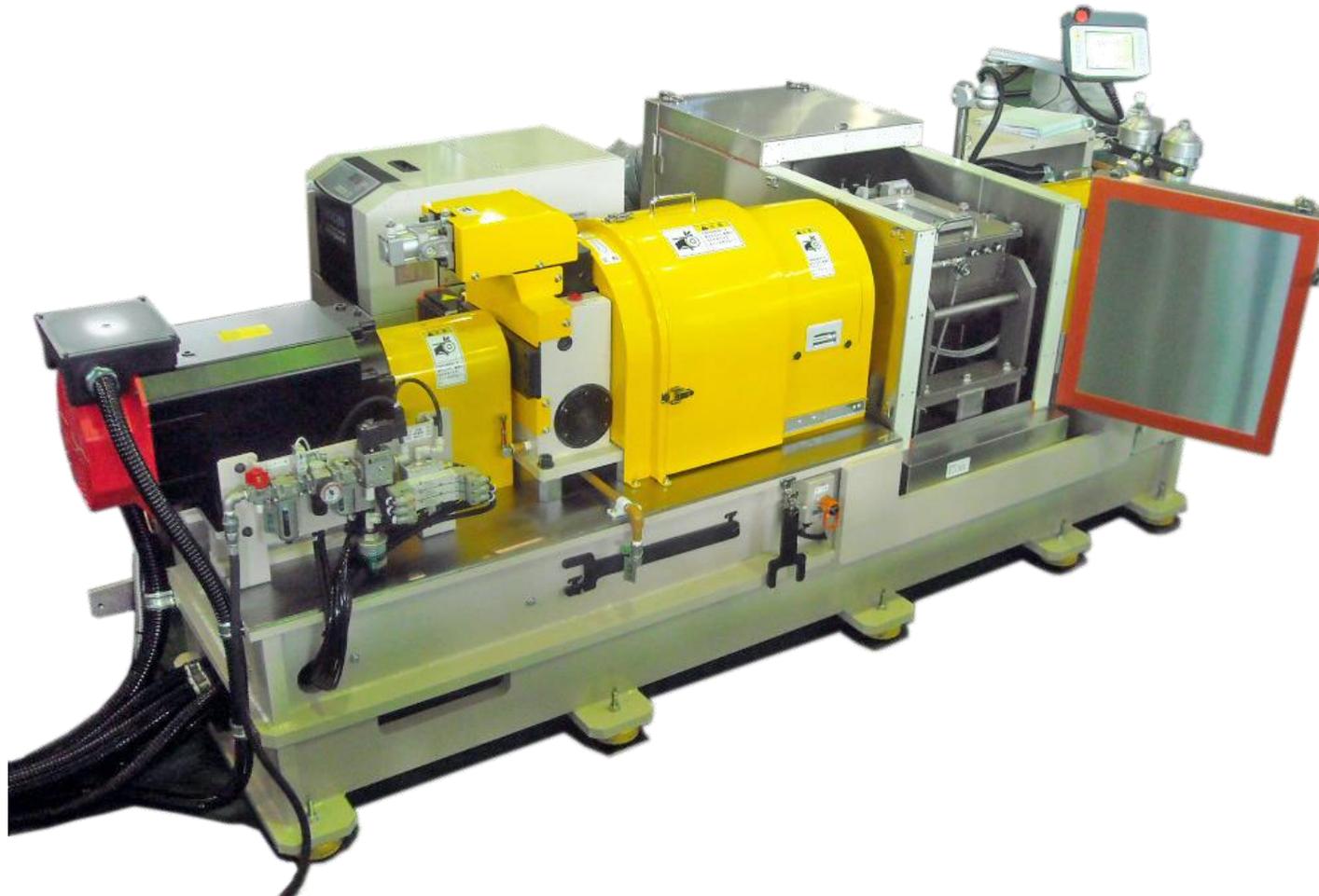
LVFA（低速滑り試験機）

オートマチックトランスミッション用湿式クラッチに対し、潤滑油を介してスラスト荷重を加えながら強制回転により摩擦させ、その際に発生する摩擦係数から、潤滑油・湿式クラッチの特性や寿命を評価します。
シャッター現象を的確に測定するため、回転駆動部には直交ギヤボックスを採用し共振点を高めた高剛性構造としております。
オートマックスのLVFAは業界標準として、多くのお客様にご利用頂いております。



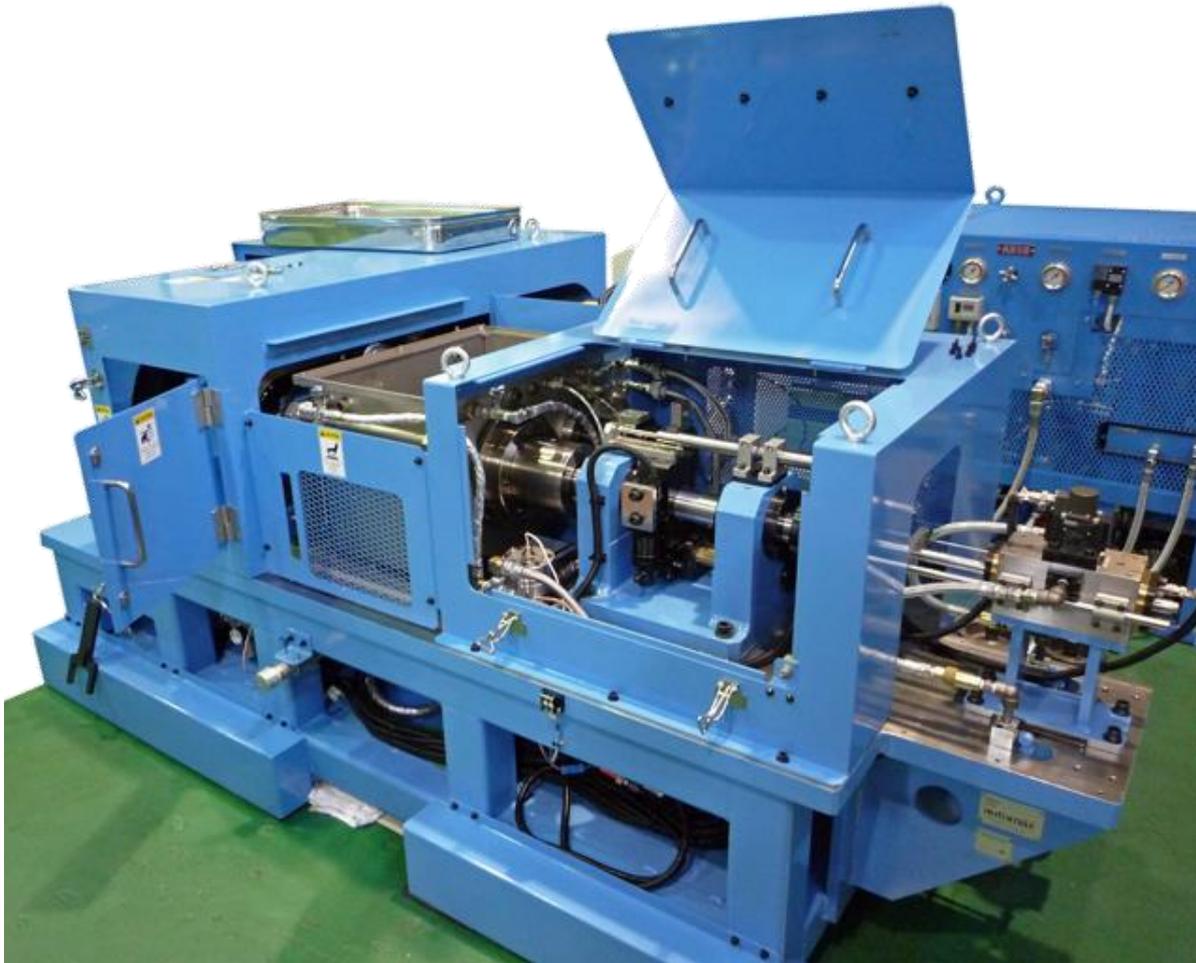
シンクロナイザーリング摩擦特性試験機

シンクロナイザーリング単体の摩擦特性を高精度に測定する試験装置です。
DCTの高速係合に対応するため、アクチュエータを小型・低慣性化し、高速荷重制御が実現しています。
また独自に開発した切り離し機構により、高回転、低慣性を達成し、更に引き剥がしトルク試験にも対応しています。
PCによる自動運転機能で、試験開始からデータ処理までを自動で行います。



商用車用シンクロナイザーリング単体試験機

商用車用シンクロナイザーリング単体の摩擦特性を高精度に測定する試験装置です。
2重軸構造を採用し、両軸回転でのシンクロ試験、及びチャンファの摩耗評価などが可能です。
アクチュエータを小型・低慣性化し、高速荷重制御が実現。また切り離し機構により、引き剥がしトルク試験にも対応しています。
PCによる自動運転機能で、試験開始からデータ処理までを自動で行います。



摩擦摩耗試験機

恒温恒湿/N₂/ドライ環境下において、ピンオンディスク形態での高速水平摺動試験が可能な装置です。ディスク(プレート)側を固定する事により油浴試験も可能となり、併せてスラスト力等の安定した計測が出来ます。

摺動運動は、加振による振動を低減するためにハイポサイクロイドを応用した特殊クランクを採用。また、高低温環境下以外では、摩擦面モニタとしてビデオスコープ（装置構成要素の一部）も装着可能です。

